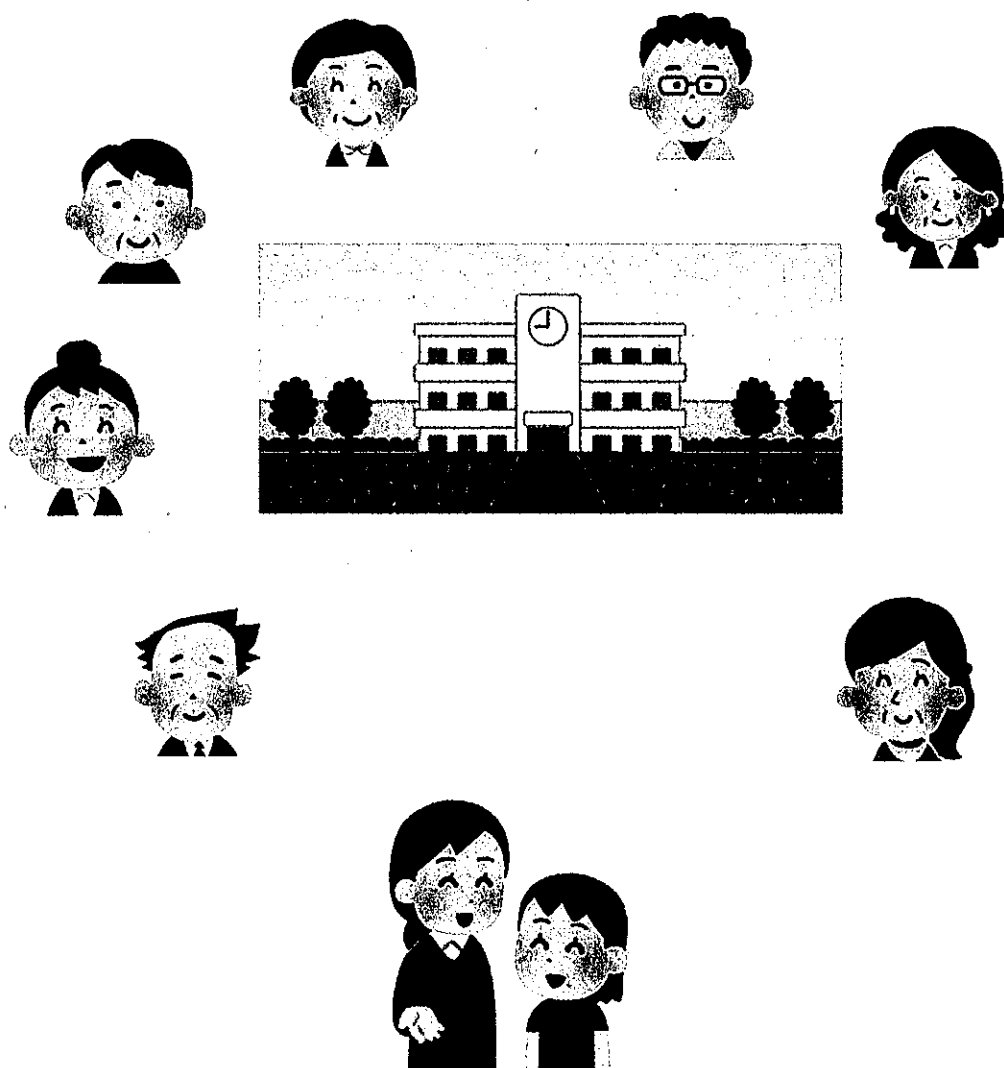


令和7年度 群馬県子ども・若者支援協議会
県・市町村青少年相談担当職員東毛地区研修会



令和7年7月24日(木) 13:00~16:40
グンエイホールPAL (笠懸野文化ホール)

令和7年度 「県・市町村青少年相談担当職員東毛地区研修会」 次第

令和7年7月24日(木) 午後1時～
ゲンエイホールPAL(笠懸野文化ホール)

1 開会

2 あいさつ 群馬県 生活こども部 私学・青少年課長 川田 純子

3 研修テーマ 「学校に行きにくさを感じる子どもの自己肯定感を育む」
～ 子ども自身が、高校での多様な学び方を自ら選択できるように ～

思春期の子どもの中には、自分に自信が持てず、傷つきやすく、精神的に不安定になったりして、時には学校に行きにくさを感じてしまうことがあります。中・高生の場合には、そうした自己肯定感が低くなって不安定な心理的状态の時に高校進学、不登校による転学や退学などの進路選択を迫られることがあります。そんな時の選択では本人にとって不本意な結果になる場合も考えられます。

一方、高校での多様な学び方として、私立通信制高校・サポート校に進学する中学生が増えています。進学した高校に行きにくさを感じて転学先に私立通信制を選択する高校生も多くいます。両者を併せると県内で年間1,000人を超えるようになってきています。

他方、県立高校でも多様な学びの選択肢が広がり、フレックス校、普通校や実業校でのコース制、少人数の定時制など、それぞれの特色を活かした学び方が増えています。また、生徒に寄り添った支援では養護教諭の役割が益々重要になってきています。県立学校では障害による学習上、生活上の困難さを改善・克服するために通級指導も受けられるようになりました。

このように高校での多様な学びの選択肢が広がっていることを考えると、学校に行きにくさを感じている生徒にとって自分に合った学びの環境を選択することは、自己肯定感を高めてより豊かな高校生活を送ることにつながり、不登校や中途退学を避けることになるのではないのでしょうか。

そうした時、私たち支援者は、当事者が自己肯定感を高めて不安定な心理状態から一歩前に動き出せるように支援するとともに、その進路選択にあたっては、本人にとって適切な情報提供や助言を行うことが求められるのではないのでしょうか。

本研修会では、思春期の自己肯定感が低くなって不安定な心理的状态子どもに対して自己肯定感を高めることの心理・行動面での効果とともに、高校における多様な学び方と、不登校を経験した当事者が自己肯定感や自己有用感を感じながら学校生活を送っている様子を紹介します。

4 スケジュール

時間	内容
13:05～13:35 (30 分間)	【基調講演】「思春期における自己肯定感を育む支援の必要性について」 講師 共愛学園前橋国際大学短期大学部 教授 上原篤彦氏 臨床発達心理士・公認心理士 共愛学園こども園 教育相談・発達支援アドバイザー
13:40～14:40 (60 分間)	【高校現場の報告】「多様な学びの環境で自己肯定感・有用感を育む生徒たち」 進行役：県立伊勢崎興陽高等学校 校長 渡部健一郎氏 発言者：県立伊勢崎工業高等学校全日制 教諭 平井宏憲氏 県立前橋清陵高等学校定時制昼間部 教諭 新井悠子氏 県立太田フレックス高等学校定時制Ⅰ・Ⅱ部 教諭 木部誠氏 県立榛名高等学校 養護教諭 阿部由利氏

14:40～14:55 (15 分間)	<休憩>
14:55～15:25 (30 分間)	【講演】医療の現場「自己肯定感を育む心理的効果とその手立ての一考察」 講師 みどりクリニック院長 鈴木基司氏
15:30～16:35 (65 分間)	【意見発表】不登校経験者が語る「私が選択した通信制高校での学校生活」 進行役:北爪喜久雄氏 (群馬県私立通信制高校連絡協議会会長 クラーク記念国際高校 前橋校校長) 発言者:群馬県私立通信制高校連絡協議会加盟校の生徒 ・クラーク記念国際高校前橋校 大澤 寧々花(おおさわ ねねか)さん 女子 3年生 ・第一学院高等学校高崎キャンパス 安江葉奈(やすえ かな)さん 女子 新入生2年次生 ・おおぞら高校高崎キャンパス 澁田 瑠璃華(しぶた るりか)さん 女子 新入生3年次生 ・わせがく高等学校前橋キャンパス 唐鎌 由(からかま ゆう)さん 男子 新入生 2025年3月卒業 現在 群馬県立農林大学校1年

5 閉会(16:40 予定) 事務連絡(アンケートなど)

令和7年度「県・市町村青少年相談担当職員東毛地区研修会」

「思春期における自己肯定感を高める支援とは」

令和7年7月24日 13:05～13:35

共愛学園前橋国際大学短期大学部こども学専攻
上原 篤彦

テーマ「学校に行きにくさを感じる子どもの自己肯定感を育む」

～ 子ども自身が、高校での多様な学び方を自ら選択できるように ～

基調講演「思春期における自己肯定感を高める支援とは」（30分間）

大学・短大	特別支援教育	障害児保育
幼稚園・こども園・保育園・小学校	スクールカウンセラー	
	教育相談・発達支援アドバイザー	
	保育アドバイザー	

公認心理師 臨床発達心理士

昨年度の研修会

～ 登校しぶり、引きこもり傾向にあった子どもが、
徐々に外にむかって動き出していく過程 ～

↑
公園デビューをする子どもの心理的な過程

今年度の研修会 自己肯定感

スクールカウンセラー 教育相談・発達支援アドバイザー 保育アドバイザー

ASD ADHD SLD の子どもたちのケースは多い

自己評価が低い 自己肯定感が低く

結果として、登校しぶり、引きこもり傾向、その他の困難な状況

自己肯定感の意味は、文字通り「自分を肯定すること」

自己肯定感が低いと

- 精神的に不安定だったり、生きづらさを感じてたりして、現在の状況に適応しづらい
- 自分に自信がなくてすごく人の眼が気になる

*急に「好きになろう」なんていわれても難しい でも大事

一昨年、SLD 限局性学習症の児童

書くことの困難さのある高学年の児童

↓

合理的配慮 → キーボード入力

多くの授業で一人だけ、書くかわりにキーボード入力

その児童の学年の2クラスにそのことを自然に理解できるような授業

1 自分の得意なこと苦手なこと

得意なこと	苦手なこと
・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・

○自分のことが好きですか

A. 好き

B. 嫌い

検索サイト

上原篤彦 共闘

共闘同公開講座一群馬大学



幸せな人生の土台は自己肯定感

- * HSCに限らない、すべての子どもに言えること
- * 子どもにかかわる教師として大切なこと

「自分は生きていて価値がある」という気持ちが
自己肯定感

自己肯定感は、自分のいいところも悪いところも
受け入れられて育つもの

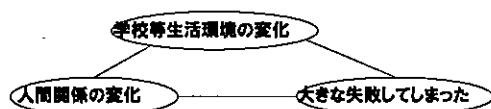
ひといちばい敏感な子の自己肯定感を育む大切な10のこと

- ①子どもを信じる
- ②抱きしめる
- ③共感する
- ④気持ちを言葉にして返す
- ⑤ネガティブな感情を吐き出させる
- ⑥スモールステップを設定する
- ⑦心の安全基地を作っておく
- ⑧その子のペースを尊重する
- ⑨少し背中を押してみる
- ⑩他人と比べるより、自分のゴールを目指そうと伝える

2 苦手なことがあっても自分は自分

自分に自信を持とう: 自己評価をさげない

自信をなくしてしまう主要な3つの原因



2 自分に自信をもとう: 自己肯定感を高める 具体的な方法

- * ほめられたことをノートにまとめる
- * 簡単にできる成功体験を積み
- * 姿勢(物事への取り組み方)を改善する
- * すべての物事に感謝の気持ちを持つ
感謝(+)...(-)を遠ざける.....自己肯定感が高まる

2 自分に自信を持つ:自己肯定感を高める 例えば

- *1週間朝しっかり起きられた
- *朝のあいさつができた
- *読みかけの本が読めた
- *日曜日やろうと思っていた机の片付けができた
- *.....

自己肯定感を高めよう

自分のことを大切にする気持ちがあつて、他者を大切にすることができる

【高校現場の報告】

「多様な学びの環境で自己肯定感・有用感を育む生徒たち」

県立高校の様々な学びの環境の中で、自己肯定感や自己有用感を育みながら成長している生徒たちの様子を、学校現場の教師や養護教諭の目を通して語っていただきます。

進行役：県立伊勢崎興陽高等学校 校長 渡部健一郎氏

発言者：県立伊勢崎工業高等学校全日制 教諭 平井宏憲氏

県立榛名高等学校 養護教諭 阿部由利氏

県立前橋清陵高等学校定時制昼間部 教諭 新井悠子氏

県立太田フレックス高等学校定時制Ⅰ・Ⅱ部 教諭 木部誠氏

【進行の視点】 <渡部校長のメモ>

- ・各高校の特色ある学びの環境の中で、不登校を経験した生徒がどのように成長しているか現場の教師の目を通して語っていただきます。
- ・高校は選んだ学校の履修や単位修得が満たさなければ卒業できません。
各校では、入学してきた生徒に対して、自校の特色を生かし、持っている様々な資源を最大限に活用して、高校進学を機に日々新たなチャレンジを目指す生徒への支援を行っています。マイナス面だけではなく、そのような成功事例についても、本日参加されている皆さんに是非理解していただきたいと思います。
- ・報告していただく先生方には事前に報告内容のメモをいただいているので、それに基づいて進行をさせていただきます。

<特色ある学びの環境とは>

不登校経験の生徒にとって、自校のどのような環境が合っていたのだろうか

自校の特徴を紹介しながら事例の生徒について語っていただきます。

生徒に合った高校選びの視点について、支援者に向けたメッセージをください。

① 平井さん（伊勢崎工業全日制）

工業高校ならではの実習の特色、固定担任のメリット、資格取得による達成感について中心に発表をお願いします。支援事例の生徒は高校卒業後も頑張っていることとともに体調は完全に回復するものでは無く、自分の体調と付き合いながらやっているということも伝えてもらえたらと思います。彼の人生、高校生活があったから上向きになったことが伝えられると思います。

事例：中学校時代不登校だったA君、入学直後の「高校生活では、頑張りたい」という向上心をどのように支えていったのか

② 阿部さん（榛名高校）

小規模校の特色を最大限に伝えてください。数学・英語のきめ細やかな学習形態や先生方の情報共有に基づいた丁寧な指導や教育相談や保健室の連携等の組織的対応について。スクールカウンセラーや通級指導の有効な活用について。学校として素早く動けるといえる点が伝えられると良いと思います。

具体例：不登校、心身の疾患や発達特性等で、学校生活に不安のある生徒に対する個別の支援事例について

③ 新井さん（前橋清陵高等学校定時制昼間部）

当該生徒の困難さに対して保護者と学校が連携できたことがポイントだと思います。生徒の実態に応じた清陵高校ならではの取り組み、スマートフォンの取り扱いや学年主任による適切な助言等を伝えてもらえたらと思います。きめ細やかな声かけや個に応じた支援を発信してみてください。

具体例：中学校時代は相談室登校、本人が抱える困難さに支援者がどのように連携して取り組んだかについて

④ 木部さん（太田フレックス高等学校定時制）

フレックススクールの特徴をメリット（個に応じた時間割設定や授業時間）に出来るかどうかが鍵であること。教職員は親身に対応（チャンス面談等）してくれるので、本人の意欲をどう見せられるか等を伝えていただき、3つの成功例を紹介していただければと思います。

学校のシステムを理解して選べるかが大事だということを（去って行く生徒も一定数いることも含め）参加者に伝えていただくこともお願いします。

具体例：中学校時代に不登校（全休、長期欠席）だった生徒が皆勤・精勤しながら次の進路に進んでいった事例について。

中学校から高等学校への移行のタイミングは、自分を変えるきっかけでありチャンスである。しっかりと「自分に合った」進路選択をしてほしい。

【講演】医療の現場「自己肯定感を育む心理的効果とその手立ての一考察」

不登校状態の子に出会った時 考えること (その子=人が育つとは)

- * 生まれた社会・文化に
適応していく力
- * 抱えた不安を表現する力

みどりクリニック

鈴木基司

うつ状態

抑うつ気分、興味と喜びの喪失、活力減退、
易疲労感、活動性の減少、イライラ感、他に以下

- a) 集中力と注意力の減退
- b) 自己評価と自信の低下
(どうせ私なんか、ふてくされる)
- c) 罪責感と無価値感→死にたい・消えたい
- d) 将来に対する希望のない悲観的な見方
- e) 自傷、あるいは希死念慮や企図行為
- f) 睡眠障害 (入眠困難・中途覚醒・早朝覚醒・悪夢)
- g) 食欲不振 @ うつは不安よりも高次の反応が絡む

不快体験→不安→不安症

▶ 少なくとも数週、通常数ヶ月、連続してほとんど毎日「不安」が続く。通常、以下の要素を含む。

- ▶ a) 心配 (将来の不幸に関する気がかり)
- ▶ b) 運動性緊張 (そわそわ、落ち着かない、
緊張性頭痛、振戦、寛げない)
- ▶ c) 自律神経性過活動 (頭痛、動悸や呼吸促
拍、上腹部痛・悪心、腹痛・下痢、不眠)

@ 不安は、不快・苦痛の再体験=危険への感知

@ 「繰り返す」不安・不本意体験は
自己評価を落とす。

問題行動や身体症状

(生理的反応と診て、関係作りの契機に)

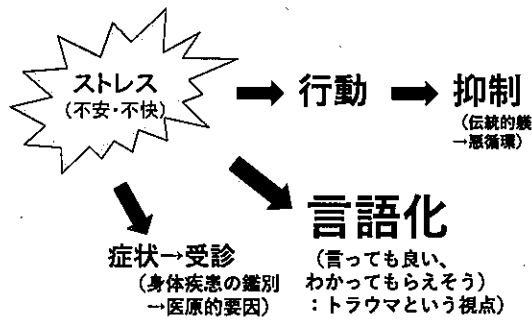
ストレス状態 (不快・不安が強く生ずる状態) では
不安対処反応が起こる。(その個体が出し易い反応)

- 1) 行動 (闘う・逃げる): 回避、逃避、拒否、非難、攻撃、
- 2) 症状 (不安だが、環境に適応しようとする):
 - 常同行為 (チェック、抜毛、爪噛み)
 - 身体症状 (自律神経やホルモン分泌の失調)
 - 精神症状 (不安、パニック、うつ)
 - 摂食障害 (拒食、過食、過食・嘔吐)
 - 強迫症状 (洗浄強迫、確認強迫、強迫観念)
 - 乖離 (欠伸、失歩、失声、遁走)

* 行動は程よいレベルを越えると問題行動とされる。

* 行動は学習的、症状は生物学的脆弱性と絡む(学習性も)

ストレスと反応



男子 (12才) 中学1年

頭痛が続くため、近医より紹介、X年4月25日、母子で来院。
 来院時現症：身長160cm、体重53kg。
 緊張している印象で、質問には頷いたり、頭を振ったりという応答。
 唯一、困ることは？→「勉強が遅れるのが心配」と小声で。
 身体的には、近医での諸検査も含め問題なし。
 まずは、症状発現の記録を促し（母と本人とで）予約外来へ。
 生育歴：発育・発達とも順調。
 物わかり良く外でも家でも問題を起こしたことのない子。
 中学入学にあたって生徒代表でPTA広報に作文が載せられていた。
 小学校時代はリーダー格であったが、小6の3学期に同級生と
 ちょっとしたトラブル（相手の方が問題？）歴あり。
 学業：高×こだわり気質強度（まじめで頑張る子）→完璧主義的志向
 家族：父45才（会社員）、母43才（主婦）、兄（高3）、兄（中3）

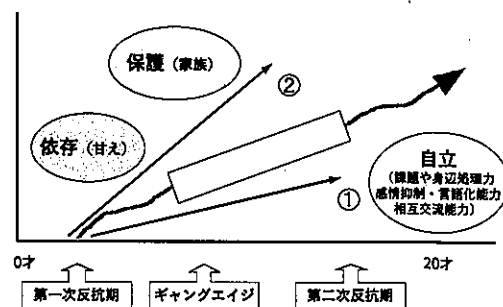
- * 受診の動機：身体症状の初期、本人に不安が生じている時、睡眠障害
- * 受診困難：周囲の不安増悪や病態理解不十分、うつ状態悪化や完璧主義
- * 来院時の入り方：連れてきた人との分離工夫（予めの予約・システム形成）

発達に関するイメージ

- 1) 発達というと、その社会・文化への適応という視点が中心となり易い。その視点では不登校で受診の約60%が順調な発達歴。
- 2) 依存（甘え）の保障という視点（できれば、家族関係で言語を用いて）。不安の表出が表現（言語化など）に・・・（聞いてもらえると思える関係＝双方向的関係を保証）。

- * 年齢不相応に依存を保障することの困難さ
- * 家族の保護機能成立が困難な場合（母親代理）
- * 問題発現は調和（自立と依存）のとれた発達への修正機会

発達についてのイメージ図



対応（子育て）目標は、**適応力**を伸ばすことと
抱えた**不安を発信する力**を育てること

役割を意識した連携（一人二役は不信を買う）

- ① その子の不安を受け止める人（保護者中心に）：
健康に生きていることが最大の価値
 - ② 程よい促しをする人（学校スタッフ等）：
当初は外から、本人の状態を観ながら
 - ③ 第三者的存在（心理師など）：保護者の不安緩和から
 - ④ 医療的介入（児童精神科、心療内科）：
薬剤の適切な使用も考慮（拒否的な場合もあり）
- * 身体症状や睡眠等での困り感、イライラ感や心配感を

困難な状態を生じさせ易い因子（2）

個体側因子（個性ということではすませ難い特性：時代・文化）

A) 持ち合わせた気質（程度＝スペクトラムゆえ、評価困難）

- 1) 執着（固執）傾向：一度、思い込んだり、感情を持った後の
可変性の程度。（働きかけへの受け入れ度：柔軟性）
- 2) 強い執着傾向と求められた領域での比較的高い能力
が重なる**完璧主義的志向**を早期に形成しかねない。

B) 社会文化への適応能力の偏倚（発達障害：程度の問題）

- 1) 情報記憶力（知能・学習達成力に主として関連）
- 2) 情報統合：処理（外部入力処理の円滑性・併行処理
経験知との参照：相互交流の質に主として関連）

困難な状態を生じさせ易い因子（1）

環境側因子

A) 家族の保護機能不全（依存保障が不十分）

- 1) 社会・文化的価値基準からの期待が過剰（家庭の背景や
同胞との比較も・・・）、一方向的対応が中心の保護者。
- 2) 時間的余裕が不十分（仕事、手のかかる同胞・家族員）
- 3) 精神的余裕が不十分（強度の家族内葛藤、保護者の
精神的不安定状態：精神疾患等）：三代遡って検討
- 4) 相性（組み合わせ、例えば、母子共に強い執着傾向）

B) 社会・文化的因子：

- 1) 自然や子ども集団での遊び不足（執着傾向の持ち越し）
- 2) 単一的価値基準による評価への早期曝露（執着助長）

小学2年男子（8才）

主訴：1) 級友とのトラブルを、ほとんど毎日起こす。

2) 席を勝手に離れたり、教室から出て行く。

止めると反発し、時には暴力もふるう。

3) 一人で好きなことをしている分には問題ないが、強く注意したり、
課題を強いるとパニック状態になる。

X年10月学校からの紹介で、父母と本児とで初診。

経過：X年5月、級友とトラブルになった時、目が据わり抑えが効かぬ状態になり

危険を感じさせられた。2学期になり、本児の行動が契機になって

学級崩壊の状況に。別室での対応を考慮し、父母は何とか了解したが、

本児は、「別クラス」ということを頑なに拒否。

初診時：あいさつはきちんとした。「何か困ってることある？」「・・・」、
母を見る。

「特にはないのかな」「話を聞いてもいい？」「その間お兄さんと遊んで
待っていて」→ブレイへ。父母と話す間、ブレイルームに。

ブレイでは次から次へと遊びを変える。気に入った遊びには熱中、終了は難渋。

「軽度」発達障害 (知的障害は認められない障害)

- *自閉スペクトラム症 *注意欠如多動症 (ADHD, ADD)
- *学習障害 (極端に困難な領域がある)
- (把え方についての私論)

「知能」に加え、「相互交流の質における困難度」という評価軸 (例えば X・Y・・・軸) を想定。この困難度は、外部入力処理する力 (実行機能レベルでの統合: 神経伝達物質の作用度や関係体験) と多いに関連する。

- *特性理解がなされず、旧来的視点からの対処 (親や本人のやる気) をされる中での二次的障害 (被害感・不安感) 悪化。
- *とくに10才を越えると・・・、注意欠如優位のADHD 自閉スペクトラム症軽度×知的能力高→完璧主義的志向 外と内の使い分けが極端、衝動性高。家族に同様の特性。

注意欠如多動症

▶以下の1)、2)のどちらかで、6項目以上が6ヶ月継続、(その程度は不適応的で発達水準に相応しない。)

- 1) a:綿密な注意ができない、不注意な過ちをおかす
b:活動で注意持続困難 c:話しかけられた時、聞いてないように見える e:順序立てが困難 g:必要なものをなくす h:外部刺激で容易に注意をそらされる
- 2) a:手をそわそわと動かし、椅子の上でもじもじする。
b:座っていることを要求される状況で席を離れる。
e:じっとしていない。 f:しばしばしゃべりすぎ。
- 3) 衝動性:出し抜けに答、順番待ち困難、妨害や邪魔

広汎性発達障害 (ICD-10)

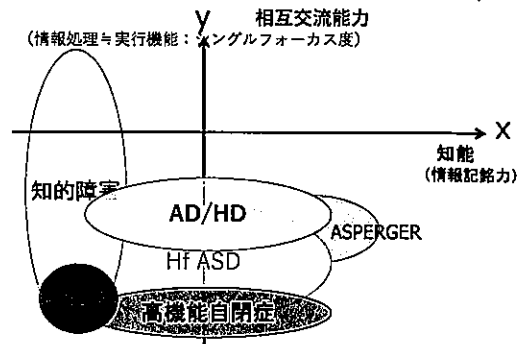
相互的な社会関係とコミュニケーションのパターンにおける質的障害、および限局した常同的で反復的な関心と活動の幅によって特徴づけられる一群の障害。程度の差はあるが、これらの質的異常は、あらゆる状況において、

その人の機能に広汎に見られる特徴である。(生後5年以内に明らか・・・、行動的特徴に基づいて診断・・・)

下位分類、小児自閉症、非定型自閉症、アスペルガー症候群、レット症候群、他の広汎性発達障害。→自閉スペクトラム症に

- ① 多くの錯綜した情報から優先順位を意識した選択が困難
- ② 一般(普通)化や概念(抽象)化が困難
- ③ 対象との適切な距離がとれない(感情や興味が絡み過ぎる)

適応するための能力から見た分布 (私論)



早期対応について

できれば、ストレス → 症状・行動 → 周囲の不安
→ 抑制 → ストレスという悪循環に早期介入したい。

(日常生活の中では「意志的行動」と見えるが、「症状」として理解していただく。この視点では、医療の役割は大きいはずなのだが・・・)

- 1) 早期症状：自立神経失調症状(身体症状)、常同行為
強迫行動、不安充満、うつ、食欲不振
- 2) 生育歴：過剰適応傾向か？ *執着傾向は強い方か？
完璧主義的志向は？感情表現はできるか(まずは肯定的に聞く)
*言葉の発達？人見知り歴？迷子歴？
- 3) 持ち合わせた *能力間のギャップは(知的能力だけで判断しない)

*乳幼児健診の活用、5歳児就学前健診(就学時健診との連携)
*執着傾向緩和：遊び(子どもに「群れ」を、叱られるまでの時間)
自然体験(偶然性、不可知性、限界感)

抱えた不安を伝える力をつける

- *不安な事(弱み?)を言っても良いと思える
- *言えば聞いてもらえる、わかってもらえる
- *自分の気持ちへの肯定的感情=
- 自分への自信が持てる体験：
- (医療ができること) → 次のスライド
- *他の子との比較を助長しない子育て
- *できれば早期に評価基準に曝さない

対応システム(現状は診断がないと・・・)

(問題発現を安定的発達保障=言語化能力獲得の機会に)

- 1) 居場所・そこでの安定的人間関係(言語的交流)の保障
(困難さへの理解 → 環境的ストレス軽減策：家庭での対応工夫、
通訳教室、情緒特別支援活用、T&T制度：せめて小学校低学年は)
- 2) 地域に第三者的機能を設置：制度の問題
(養育教諭：複数化、相談員、スクールカウンセラー「常駐」)
- 3) 保護者と専門家との連携：共通理解・役割分担
(受け止めと適応促し=依存と適応を共に保障：甘えを年齢不相応に保障する
ことの困難一時に避難場所要：児童病棟、情緒障害児短期入所施設、
児童養護施設)
- 4) 専門的スタッフ相互の連携：困難度は大(関が高)
(教育、医療、福祉、さらには各分野内の連携)

*言語化は敵対モードでは不可、自立モードとも違う、依存モードの延長。
*保護機能不全の程度によっては社会的に代行(入所施設)

医療ができること

- ◎ 抱えた不安を言葉にする力を育てる
- 不安な事を話そうとすると涙、イライラする方
- 話し易そうな存在を保障！しながらSSRI少量
- 話したらわかってもらい自信を回復
- ◎ とくに拘り気質が強く完璧主義的志向が形成
- されつつある方にSSRIや抗精神病薬
- ◎ 注意欠如優位のADHD特性から来る不全感
- (自己評価低下)の方に中枢活性剤など

【意見発表】

不登校経験者が語る「私が選択した通信制高校での学校生活」

中・高校での不登校経験を経て、自分に合った学びの方として選択した私立通信制高校での学校生活について、進行役の質問に答えながら発言します。

進行役：北爪喜久雄氏

(群馬県私立通信制高校連絡協議会会長 クラーク記念国際高校 前橋校校長)

発言者：群馬県私立通信制高校連絡協議会加盟校の生徒

- ・クラーク記念国際高校前橋校
大澤 寧々花 (おおさわ ねねか) さん 女子 3年生
- ・第一学院高等学校高崎キャンパス
安江 栞奈 (やすえ かな) さん 女子 新入生2年次生
- ・おおぞら高校高崎キャンパス
澁田 瑠璃華 (しぶた るりか) さん 女子 新入生3年次生
- ・わせがく高等学校前橋キャンパス
唐鎌 由 (からかま ゆう) さん 男子 新入生2025年3月卒業
現在 群馬県立農林大学校1年

【こんな話が聞けたらいいな】 <進行役の北爪さんの思い>

- Q1 小学校や中学校、または高校生になってから、「学校に行きたくない」と思ったり、「行きたいけど行けない」という気持ちになったりした経験がありますか？
- Q2 皆さんは、高校進学で通信制高校を選択したわけですが、なぜその学校に決めたか話せる人は、理由を聞かせてください。
- Q3 あなたのことを認めてくれる、そして、褒めてくれる人は誰ですか？
- Q4 あなたは「友達」って必要だと思いますか？友達の定義は人それぞれだから、友達が「100人いる」と答える人もいれば、「1人もいない」と答える人もあるかもしれません。その答えは比べようがないものですが、あなたにとっての友達って、何人くらいでしょう。
- Q5 あなたのよいところは？と聞かれたら、答えられる人はいますか？
- Q6 あなたたちが、高校生活で挑戦したと思える体験があったら話してみてください。その時のドキドキとか、挑戦した後の達成感とか挫折感とか・・・
- Q7 今、「夢」というタイトルで作文を書いたとしたら、どうですか？

注) 全ての項目を答えていただけるかはわかりません。皆さんの話の展開で内容が変わることもあらかじめご承知おきください。

